



正面石段脇と東参道口の二ヶ所に設置されているが、正面の物は柱と屋根が付いているので、社殿として扱われる。東参道口の手水鉢(上写真)は、大正15年5月、西田・竹原孫市氏の寄進により設置された。

**手水鉢**  
てみずばち  
手水舎と同様、神社に参拝をするときに、手を清め、口をすすぐための物である。



⑦金刀比羅神社に一对設置されている石燈籠。昭和13年5月の築造で、井谷一二、永原兼太郎、船越祐太郎、大森亀太郎の四氏が寄進している。



大正15年5月、鶴崎神社・八幡神社屋根葺き替え記念として、本殿高欄、縁板、階用材及び改修寄付金、両社備品奉納者の氏名を刻している。備品は、両社御簾、縮緬幕、恩賜形燈籠、釣燈籠。

**記念碑**  
きねんひ  
神社では、社殿の造営や修理などを行った場合、その記録や奉納者の氏名を後世に残すべく、石碑に刻する事が行われる。また、郷土の偉人などを顕彰する石碑なども建立される事もある。

大正5年9月、鶴崎神社、八幡神社及び鹿島神社社殿改修工事竣工記念として、表面に奉納者の氏名、裏面に改修箇所と宮司、総代、石工等の氏名を刻している。



- 改修した箇所は次の通り。
- ◆土留め用延べ石設置（その後の大正八年この石の上に玉垣を設置した。）
  - ◆石畳十三坪（半改修）
  - ◆百度石一基
  - ◆石垣十坪
- 工事に当たった石工は原福蔵氏。



⑧鹿島神社向かって右側に一基設置されている石燈籠。⑥に設置されている石灯籠と形状が同じであることから同時期に作られたと思われる。当時は一对だったのかも知れない。



③拜殿下両石段の間に設置されている石燈籠。正面に「献灯御両社」と刻まれていることから、鶴崎神社と八幡神社の兼用として一燈のみの設置となる。文化11年(1814)3月の築造である。



②随神門両脇に一对設置されている春日型石燈籠（六角型）築造年代は不明である。



①表参道口に一对設置されている石燈籠。  
文政11年(1828)5月、厨司仙次郎の寄進により築造され、正面に「献燈」の文字が深彫りされており、規模が大きく容姿も美しい。



⑥鶴崎神社本殿と八幡神社本殿の間に一对設置されている春日型石燈籠（四角型）築造年代は不明であるが、佐藤卯左衛門が寄進している。  
(八幡神社本殿前に移設)



⑤拜殿両脇に一对設置されている石燈籠。正面に「永代常夜燈」と刻まれている。  
延享2年(1746)の築造で、前潟村、前新田村が寄進している。胴が細くくびれている。  
(新拜殿前に向きを変えて移設)



④拜殿右側石段右に設置されている石燈籠。正面に「常夜燈」と刻まれている。築造年代は不明であるが、玉垣を接続していた跡があることから、拜殿を改築する迄は上段の玉垣の親柱を兼用していたのかも知れない。